

専門委員会開催報告

会合名	第 11 回「原子力に関わる人文・社会科学的総合知問題」研究専門委員会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*() *分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2024 年 1 月 23 日(木)13:30～15:15 メール審議の場合は開始、終了日を記入のこと
開催場所	Zoom によるオンライン開催
参加者名	土田主査、佐田幹事、寿楽幹事(文責)、稲村委員、木藤委員、布目委員、山本委員、岸本充生教授(大阪大学教授、話題提供者)
議事	1. 主査挨拶 土田主査より挨拶があった。 2. 幹事会報告 前回委員会以降、幹事会の会合開催はなかったが、前回委員会で一任を受けた、委員会設置期間延長申請ならびに春の年会での企画セッション関連について、この間の幹事会での対応について報告があった。 3. 委員会の設置期間延長ならびに予算申請について 延長申請書ならびに予算申請書について、メール審議を経て学会に申請を行った結果が改めて報告された。 4. 春の年会での企画セッションについて 学会事務局に提出したセッション提案書最終版が報告された。また、外部講師である岸本充生教授(大阪大学社会技術共創研究センター長・教授)からお預かりした演題と講演要旨が報告された。 5. 岸本充生教授(大阪大学社会技術共創研究センター長)話題提供 岸本教授より、「安全概念のアップデートとそれに伴う風評への向き合い方の変化の可能性」と題した話題提供がなされた。時代の変化とともに「私たちが守りたいもの」が多様化し、それに伴い安全概念が変容していること、そのことが人びとのリスク認知、さらには「風評」問題にも大きく影響していること、また、「風評」問題と対になる社会現象として「ハイプ」(過剰期待)の問題も類似のメカニズムで発生していると思われることなどが指摘され、委員との間で種々意見交換がなされた。 6. その他 「風評」問題についての検討にメドをつけたあとの来年度の検討課題について、今後、意見交換を進めて合意をめざすこととした。
備考	

専門委員会開催報告

会合名	第 10 回「原子力に関わる人文・社会科学的総合知問題」研究専門委員会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*() *分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2023 年 11 月 14 日 (木) 10:00～12:00 メール審議の場合は開始、終了日を記入のこと
開催場所	Zoom によるオンライン開催
参加者名	土田主査、佐田幹事、寿楽幹事(文責)、稲村委員、木藤委員、桑垣委員、布目委員、廣瀬委員、山本委員
議事	1. 主査挨拶 土田主査より挨拶があった。 2. 2024 年春の年会における企画セッション提案について 寿楽幹事より企画セッション提案書案が提示され、内容について議論がなされた。議論の結果、一部修正の上で提案書案を了承し、学会事務局に提出することとした。 3. 報告書の作成について 次の議題である本委員会の設置期間延長の件とも深く関わることから、当該議題と一括して議論することとした。 4. 委員会の設置期間延長ならびに予算申請について 2024～2025 年度の 2 年間の設置期間延長を申請し、その期間を利用して「処理水」放出後の最新状況も踏まえた内容を反映した報告書を最終的な成果として取りまとめることとした。また、当初は今年度秋季に予定していた成果発信とフィードバックのための学術行事は 2024 年度中の開催を目指すこととした。 5. その他 土田主査、佐田幹事から、「処理水」放出後の最新状況について専門的知見を踏まえた情報提供があった。 また、2024 年春の年会における企画セッションで来演をお願いしている大阪大学の岸本充生教授に委員会でも話題提供をいただいてはどうかとの提案があり、年明けを目途に調整することとした。 その他、企画セッションや延長申請に係る手続き関係については、幹事会への一任を得た。
備考	

専門委員会開催報告

会合名	第 9 回「原子力に関わる人文・社会科学的総合知問題」研究専門委員会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*() *分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2023 年 9 月 28 日(木)10:00～12:00 メール審議の場合は開始、終了日を記入のこと
開催場所	Zoom によるオンライン開催
参加者名	土田主査、佐田幹事、寿楽幹事(文責)、稲村委員、木藤委員、桑垣委員、小林委員、高木委員、高嶋委員、竹田委員、布目委員、廣瀬委員、山本委員
議事	1. 主査挨拶 土田主査より挨拶があった。 2. 幹事会報告 佐田幹事、寿楽幹事から第 8 回幹事会の議事録案が報告された。 3. 秋季学術行事の開催計画について 2024 年 8 月の福島第一原子力発電所での「処理水」放出開始後の状況(周辺国からの反応、世論の急激な変化、等)を踏まえた議論がなされ、慎重に計画を検討することとした。 4. 今後の検討テーマについて 上記も踏まえ、新テーマの設定は当面、保留とすることとした。 5. その他 2024 年春の年会で社会・環境部会と合同で企画セッションを開催する方向で準備を進めることとした。内容はこれまでの検討結果の報告、それに対するフィードバックを受けることを中心とする方向で準備を進めることとした。
備考	

2023 年 9 月 1 日

専門委員会開催報告

会合名	第 8 回「原子力に関わる人文・社会科学的総合知問題」研究専門委員会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*() *分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2023 年 8 月 17 日(木)13:00～15:00
開催場所	Zoom によるオンライン開催
参加人数	10 名 佐田幹事、寿楽幹事(文責)、稲村委員、木藤委員、小林委員、高木委員、竹田委員、布目委員、廣瀬委員、山本委員
議事	1. 主査挨拶 土田主査が急きょ欠席となったため、割愛した。 2. 幹事会報告 寿楽幹事から第 7 回幹事会の議事録が報告された。 3. 秋季学術行事の開催計画について 寿楽幹事から秋季学術行事企画に関する幹事会原案が提示された。 また、竹田委員から、「風評(被害)」問題に関して既往研究の状況に関する補足情報の紹介があった。 これらを踏まえて意見交換がなされ、原案の方向性で 11 月ないし 12 月に行事を開催する方向で検討することとした。 4. 今後の検討テーマについての議論 寿楽幹事から今後の検討テーマの幹事会原案(たたき台)が提示された。 エネルギー利用に係る倫理そのものを問い直すなど、人文学に関わりの深いテーマについて関心が寄せられた。 これを踏まえて、次回委員会に幹事会から第二次案を示すこととした。
備考	

2023 年 7 月 20 日

専門委員会開催報告

会合名	第 7 回「原子力に関わる人文・社会科学的総合知問題」研究専門委員会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*() *分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2023 年 7 月 13 日(木)10:00～12:00
開催場所	Zoom によるオンライン開催
参加人数	11 名 土田主査、佐田幹事、寿楽幹事(文責)、稲村委員、木藤委員、桑垣委員、小林委員、布目委員、廣瀬委員、諸葛委員、山本委員
議事	1. 主査挨拶 土田主査から挨拶があった。 2. 幹事会報告 寿楽幹事から第 6 回幹事会の議事録が報告された。 3. 「風評」問題に関する議論のとりまとめ 前回委員会後に各委員から出されたこの問題についての「所感」の内容を踏まえ、これまでに出了れた論点の確認と整理がなされた。「風評」問題という理解の枠組み自体を改めて学術的に問い直すという本委員会の立場を確認し、今後、報告書や学術行事での発信につなげることとした。 4. 今後の検討テーマについての議論 「風評」問題に関する議論の取りまとめに時間を要したため、本件は次回に持ち越して議論することとした。 5. その他 委員会の検討結果を発信するとともにフィードバックを得る機会とするため、秋頃(11～12 月)に学術行事を開催することとした。シンポジウムとするほか、あるいは外部有識者を招いてのワークショップを行った上で後半は公開のウェビナーとする案も念頭に置くこととした。幹事会で開催案を検討し、次回委員会に諮ることとした。
備考	

2023 年 5 月 30 日

専門委員会開催報告

会合名	第 6 回「原子力に関わる人文・社会科学的総合知問題」研究専門委員会
会議種別	本会議 幹事会 メール審議 その他*() *分科会、WG 等具体的に記入のこと
開催日時	2023 年 5 月 15 日(月)15:00～16:30
開催場所	Zoom によるオンライン開催
参加人数	13 名 土田主査、佐田幹事、寿楽幹事(文責)、稲村委員、木藤委員、桑垣委員、小林委員、高木委員、竹田委員、布目委員、廣瀬委員、諸葛委員、山本委員
議事	1. 主査挨拶 土田主査から挨拶があった。 2. 幹事会報告 寿楽幹事から第 5 回幹事会の議事録が報告された。 3. 2023 年春の年会における合同セッションの開催結果について(報告) 春の年会での合同セッションについて、企画委員会に提出した活動報告の記載を紹介しつつ、盛会であったことが報告された。 4. 2022 年度活動報告の提出について(報告) 幹事会で承認し、企画委員会に提出した活動報告の内容が報告された。寿楽幹事より、企画委員会においても会長以下委員各位から本委員会の活動について好意的なコメントがあったことが紹介された。 5. 2023 年度の活動について 委員から「風評」問題に対する本委員会での検討を経た学術的解釈枠組みの利害得失や、今後、他のテーマにも同様の視座を適用する可能性などについて種々意見交換がなされ、それを踏まえて、シンポジウムの開催に向けた準備、さらなる外部講師招へい等によるインプットの拡充などが議論された。 委員各位の所見の内容が多岐にわたり、また非常に豊かな含意を持つことが認識されたため、各自、会議終了後に簡単な文書にまとめて共有することとなった。
備考	